



世界に希望を生み出そう

高岡
北
ロータリークラブ
TAKAOKA-NORTH
ROTARY CLUB



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 魚住 晃一
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 水原 延幸
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 島 幸美

第1923回 例会 2月 26日(月)

◇点 鐘

◇ソング “我等の生業”

◇ゲスト並びにピシターの紹介

ゲスト：オタヤこども食堂 代表 高澤 満里子 様
富山県こどもホットサロンネットワーク
会長 田辺 恵子 様

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。去年、富山マラソンを走った時に作っていただいた応援うちわがなぜか演台にあります。当日野村にある村牧さんのお店で一生懸命振って下さっていたそうです。正直、まったく気が付きませんでした。フェイスブックを見て、いつ貰えるのかなと思っていたら、今日持ってこられました。一応「会長」と書いてあるので、今年の11月だともう会長ではありませんから、今年の富山マラソンは走らなくていいのかなと思っています。

本日は、高澤さんと田辺さんにお越しいただき、お話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今日、新聞を読んでいたたら、外国人技能者が石川県で被災され、研修先の工場が壊れたりして操業していないならば、別のところで働いておられるのかと思っていましたら、それは勝手にやってはいけないことらしく、変更許可書を提出しなければならず、条件はいろいろあるそうです。それを申請された方は45名で、実際に石川県に技能者として登録されている方は870名おられ、すべての方が変更許可書を出さなければいけないわけではないのですが、特例という形で出るそうなので、ハードルがものすごく高いのかなと思っています。そのようなところを、震災だからもっと簡単にするような仕組みを作っていただきたいです。阪神の震災から、東北の震災、そして能登の震災と来ているので、徐々に緩和はされていると思いますが、少しずつ都合の悪いところは直していけばいいのかなと思っています。

高岡北RCに関しましても、創立してから44年経ちましたが、少しずつ居心地の悪いところや良くないところは

改革していき、どんどん利用しやすい会にしていきたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

◇幹事報告

- 1) 今週末の3月3日(月)に、富山第4グループの都市連合会(IM)が開催されます。9名の方が登録されております。よろしくご予定下さい。
- 2) 次回3月4日(月)例会は、高岡向陵高等学校の横畠アンナアケミさんに「インターアクト活動報告」をしていただきます。また、同日例会終了後にパスト会長会議を開催いたします。
- 3) 回覧：①会報NO.26(テーブル毎)

◇出席報告 出席者 21名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	2/5例会 修正出席率
1名	32名	80.77 %	84.62 %

◇ニコニコBOX報告

魚住 会長：高澤さま、田辺さま、ようこそご来場ありがとうございます。本日の卓話よろしくお願いいたします。

勝山 功君：一週間、タイへゴルフ旅行に行ってきました。

【今年度ニコBOX累計額 271,000円】

◇本日のプログラム(担当：ロータリー情報)

卓話「オタヤこども食堂の取り組みについて」

オタヤこども食堂 代表 高澤 満里子 様

富山県こどもホットサロンネットワーク

会長 田辺 恵子 様

2014年から2015年頃マスコミなどで子ども食堂が取り上げられるようになり、私たちも大変共感し、有志数名でまず始めようと立ち上がりました。始まるにあたり、場所や告知方法など、いろいろな方たちにご意見を頂き、富山県で第一号としてオープンいたしました。私たちが子ども

食堂を始めて、早いもので9年になります。富山県内の子ども食堂の数は1月現在で64か所になっております。全国的にみて最下位は脱出しましたが、まだまだ足りていないのが現状です。全国的に子供の貧困率は子ども食堂が開設された当初は6人に1人の割合でしたが、現在は多少改善され10人に1人となっております。まだまだひとり親の率は大変厳しい状況にあります。先日、ある高校生が子ども食堂を利用するきっかけがテレビで放映されていました。毎日昼食時になると、お弁当持参が困難なため、保健室に逃げ込み、食事が終わるころに教室に戻るといった生活を続けていたら、保健室の先生が地元の子ども食堂を紹介してください子ども食堂で一日1回の食事をとれるようになったというものでした。しかし、この子ども食堂では、毎日の開催ではないようでした。全国の子ども食堂の数は9,000か所以上ありますが、その内容は月に1回の開催、月2回の開催、365日食事を提供している所、孤食の解消、食育で地域との交流の場と多種多様です。そして、コロナ禍において、子供たちの居場所としての開催は難しくなってきました。それでも、何とか試行錯誤し、お弁当の配布に切り替えたり、食材の配布のようなフードパントリー方式にしたり、いろいろな角度から子育て世帯を守る活動を続けております。オタヤ子ども食堂もコロナ禍で2~3回程度はお休みさせていただきました。お弁当の配布、食材の配布を行ってきました。コロナ禍が落ち着き、子ども食堂を再開するにあたり、食器類を使い捨て容器に変更したりし、いろいろと工夫してきました。来場者数もコロナ前のイベント時の304名までは届きませんが、200名程度の利用者の運営を行っております。また、高校生、大学生のボランティアも大変増えてきております。新たに現在取り組んでいることは、相談コーナー、将棋コーナーなどを設けております。相談コーナーは、育児の悩み、健康の悩みなどを、毎回専門の看護師さんに来ていただきアドバイスをいただいています。先日、アスペルガー症候群のお子さんをお持ちのお母さんが、外で食事をしたいけれど、突然奇声を発するので、どこにも行けないのだけれど、この子ども食堂は、小さなお子さんたちが多く、飛び回って大きな声でおしゃべりしても誰も咎めないの、気にせず食事がとれると涙ながらに思いを打ち明けていかれたそうです。もう一つの特徴として、平均利用者数が、200人くらいの為、待ち時間もそれなりにあります。そこで一役買ってくれているのが、待ち時間を利用した将棋コーナーです。毎回小さなお子さんがいらっしゃるそうですが、教えて下さる方がお仕事の都合上お休みされると、次の時に「なんで来なかったの？」と詰め寄られたりするそうです。いろいろな地域の方に支えられ、オタヤ子ども食堂は成り立っております。これまで、運営していく上で紆余曲折を乗り越えて皆様のあたたかいご支援に支えられて、今日に至っております。これからも、私たちにできる範囲での活動を続けていきたいと思っております。

◎富山県子供サロンネットワークより◎

子供サロンネットワークとは、子ども食堂が開設されてから2年後に子ども食堂のグループで立ち上がりました。

県のこども未来課がかかわっております。当初は、24か所ほどでしたが、今年は先ほどのお話にもありましたが、64か所に増えております。非常に増えたと思っておりますが、全国で44番目です。今現在9,300か所子ども食堂が開設されております、一番多いのは、東京と沖縄です。2008年ごろから子どもの貧困についていろいろと取りざたされていたなかで、私たちが知ったのは2015年9月に子ども食堂というものがあるということを知り、あつたらいいなということで考えて解説しました。「こども食堂」というネーミングですが、初めて開かれた東京の「きまぐれ八百屋だんだん」というところが始まりです。「こども食堂」という名前と、「きずな食堂」という名前「地域食堂」「ふれあい食堂」という名前があります。「きずな食堂」「地域食堂」「ふれあい食堂」に例えば100%人が来るならば、「こども食堂」という名前にすると、120%の人が来て下さるそうです。現在は44位ですが、県の方の報告では、子供に関する思いは富山県として非常に強いのですが、どんどん増えていく方向性であるとおっしゃっていました。運営としては、保健所に提出する書類は飲食店を運営するのと同じだと言われていたので、非常に厳しい審査を受けました。富山県は47位と聞いてそのハードルは下がりました。こども食堂を運営する保健所の取り扱いも柔らかくなり、立ち上げ資金として県と市から各10万円提供して下さいます。これは、食事に使うのではなく、施設や食器に使ってほしいと言われております。64か所に増えておりますが、一番増えたのは、去年、こども庁の影響で21か所、今年1月に2か所増えております。2018~19年までは、12~13か所しか立ち上がっておりませんでした。全国では9,132か所ですが、これは、全国の公立中学校の数とほぼ同じです。ということは、各小学校区にできたらいいのではないかと、子ども食堂支援センターむすびえの湯浅さんがおっしゃっています。子供が歩いていけて安全であるというのは小学校区が安全であると考えておられます。立ち上げることにしているいろいろな質問がありますが、経済的なことであるとか、継続するために協力して下さる人材であるとかのご質問がありますが、この地方では納涼祭や町内会の催し物と同じような形態ですということであれば、問題なくできます。特別な団体ではありません。有難いのは飲食店をしておられる方が、子ども食堂を開設して下さっていて、子供ならだれでも良いと365日開設しておられるところも富山にあります。子ども食堂を運営する立場としていろいろな取材があり、一番困る質問が「何が大変ですか？」と聞かれること、そして、来場者に「何に困ってここへ来ているんですか？」と聞かれ、子ども食堂に来る人は、かわいそうな人、貧困であるとうことが伝わるといことが、違っていると非常に感じております。子ども食堂に来る人のイメージが少しでも払拭できればと願っております。先ほどの湯浅さんは、星の数ほどの子ども食堂ができればいい。いつでもどこにでも行けるというのが理想だとしておられます。あと、知名度がないので、広報の力が必要になっております。皆様のご協力をお願いします。